

# 令和6年度 一関市農業技術開発センター運営委員会

日時：令和6年7月23日（火）  
午前10時～午前11時30分  
場所：南部農業技術開発センター会議室

## 次 第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 委員長の互選
- 4 報告及び協議
  - (1) 令和6年度事業の取組み状況について
  - (2) 令和6年度事業の今後の取組みについて
  - (3) その他
- 5 その他
- 6 閉 会

一関市農業技術開発センター運営委員会 運営委員名簿

区分	団体名	職名	氏名	備考
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	平瀬 英利	
			千葉 守	
			設楽 里美	欠席
			阿部 晋	欠席
			後藤 忠行	
			佐藤 正弘	
			遠藤 健志	
			千葉 健司	欠席
			小島 幸喜	
			大越 留美子	欠席
			佐藤 幸子	
			小野寺 勝義	欠席
			佐藤 洋子	欠席
			千田 広子	欠席

※ 任期：2年

※ 委嘱期間：令和4年11月29日～令和6年11月28日

一関市農業技術開発センター運営委員会 担当者名簿

所 属	職 名	氏 名	備 考
農林部	部長	小野寺 啓	
農林部生産流通課	次長兼生産流通課長 (農業技術開発センター所長 兼務)	千葉 清	
農林部生産流通課	畜産園芸係長	日下 昭二	欠席
農林部生産流通課	主事 (農業技術開発センター主事 兼務)	佐藤 裕	
南部農業技術開発センター	副所長兼農業技術員	千葉 広	
南部農業技術開発センター	農業技術員	米倉 清徳	
南部農業技術開発センター	主任主事	齋藤 哲也	
北部農業技術開発センター	副所長兼農業技術員	佐藤 克朗	
北部農業技術開発センター	農業技術員	佐藤 尚志	

## 報告及び協議（１） 令和6年度事業の取組み状況について

### 1 土壌分析診断事業（両センター共通）

作物が良質で、安定的に多収をあげるためには、生産母体である土壌が健全であることが重要であるという考えのもと、土壌の科学的な分析により、健全な土づくりと過不足ない適正な施肥をするため、土壌分析診断事業を実施する。

#### ○土壌分析診断実績点数

		基本土壌分析		
		令和6年度 実績点数	令和5年度 実績点数	令和4年度 実績点数
土壌分析点数		38	909	822
内	南部センター	20	580	501
訳	北部センター	18	329	361

#### ○基本土壌分析診断点数内訳

部会名	担当	R 6（実績）	R 5（実績）	R 4（実績）
野菜部会	北部	—	20	15
トマト部会	北部	10	163	156
ミニトマト部会	北部	—	33	31
果樹部会	南部	—	15	1
ピーマン部会	南部	—	301	317
花き部会	南部	—	42	22
きゅうり部会	北部	—	64	72
なす部会	南部	—	103	95
ねぎ部会	南部	—	30	24
いちご部会	南部	—	1	7
メロン部会	南部	—	9	14
稲作部会	両	—	—	—
畜産部会	北部	—	—	11
一般	両	28	128	57

## 2 小菊の有望品種選抜について (担当：南部農業技術開発センター)

### 1) 〈目的〉

- ▶ 近年、温暖化や不安定な気象条件から、主力品種の開花期が需要期からずれることが課題となっている。
- ▶ 未導入又は栽培例の少ない品種の中から、盆・彼岸に開花する有望品種を選抜し、地域に適した栽培方法を確立する。

### 2) 〈期間〉 令和6年度～令和8年度

### 3) 〈取組内容〉

- ▶ 試験栽培  
開花時期、開花を調節するホルモン剤の効果や採花本数などを確認する。
- ▶ 農業者への周知  
生産者を対象に、試験栽培している南部農業技術開発センターの圃場見学会を開催し、実物を見せながら開花時期、品種特性及び栽培方法を伝える。

#### ◆ 取り組み状況

3月下旬～ 圃場整備（耕起、施肥、防草シートの設置等）

4月30日 JA8月咲き分定植2,200本 普及センターから3人

5月9日 山手秀峰園8月咲き分定植600本

6月4日 JA9月咲き分定植1,200本

6月6日 山手秀峰園9月咲き分定植600本



〈薬剤散布〉



〈整枝作業〉

#### 圃場見学

6.28 花き部会西部支部 約20名

7.19 花き部会藤沢支部 約20名



### 3-1 有機農業の推進に係る取り組み（担当：北部農業技術開発センター）

#### 〈事業主体〉

一関地方有機農業推進協議会 平成 20 年 4 月設立

#### 1) 目的

環境と調和しつつ、安全・安心を求める消費者ニーズに応える農産物の生産を行い、自然が本来持つ循環機能の増進と生き物の力を最大限生かして、作る人、食べる人、そして地球のすべての健康を可能にする農業を目指す。

#### 2) 取組内容

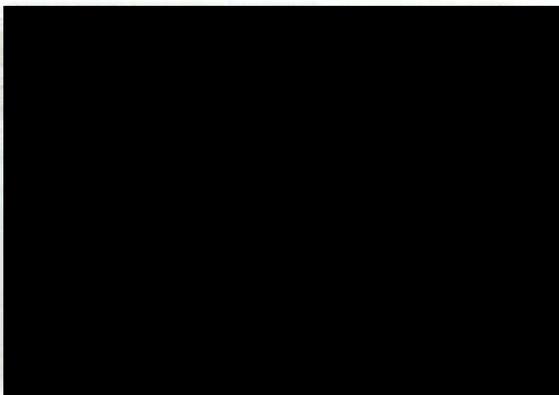
##### (1) 総会等

- ▶ 一関地方有機農業推進協議会役員会の開催（5月28日）
- ▶ 一関地方有機農業推進協議会総会の開催（6月13日）

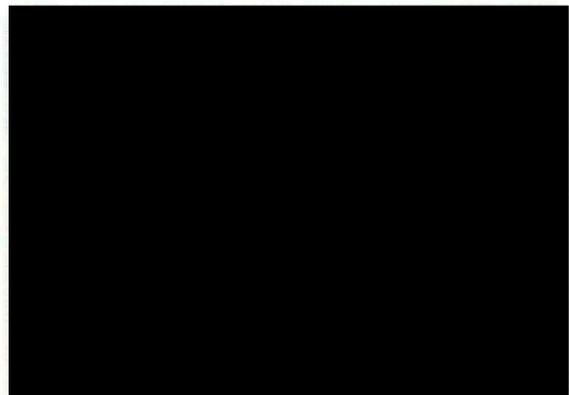
##### (2) 田んぼの学校の開校

次代を担う子ども達へ有機水田での田植え体験などを通じて環境保全型農業に対する理解を深め、有機農業者との交流や食育の増進を図る。

- ▶ 田植え体験 6月1日（土）
- ▶ 草取り、生き物調査 7月13日（土）
- ▶ 稲刈り体験 10月5日（土）（予定）
- ▶ 収穫祭 12月7日（土）（予定）



（田植え行事風景）



（参加児童生徒集合写真）

##### (3) 有機農業の取組み状況

有機農業生産者	有機 JAS 取得者数	有機水田面積	有機 JAS 米生産量
22 人	9 人	13.17ha	29.2 t

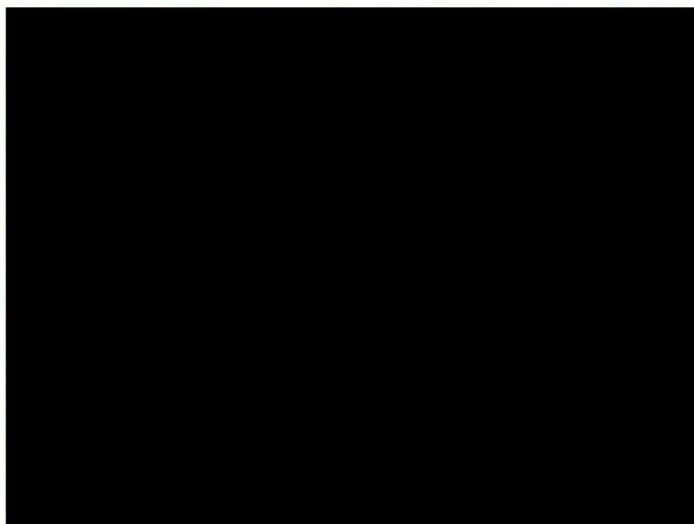
### 3-2 地域おこし協力隊の募集について (担当：北部農業技術開発センター)

#### 里山に暮らし、師匠に教わる。有機農業の後継者《オーガニックファーマー》を募集！

岩手県 一関市



岩手県一関市は、県内初の「オーガニックビレッジ宣言」をした街で、有機農業に力を入れています。しかしながら、先駆者として、約25年前より有機栽培に取り組んできた農家さんたちが高齢化し、次の世代にバトン繋ぐことが必要になりました。そこで、今回新たに有機農業の後継者として、農業に取り組む地域おこし協力隊を募集します。



一関市では、平成20年に有機農業に取り組んでいる農業者等で「一関地方有機農業推進協議会」が設立され、有機農業の普及・推進に向けた活動を進めており、取組面積は約12ha（水稲）となっています。環境保全効果の高い有機農業をより一層推進するため、令和6年1月には岩手県内初となる「オーガニックビレッジ宣言」を行い、一関市では地域ぐるみで有機農産物の生産及び消費の拡大を目指して取り組みを進めています。

また、協力隊がメインで活動する一関市の大東地域には「大東町有機農産物等生産組合」があり、「一関地方有機農業推進協議会」と連携しながら、環境に優しい農業を目指し、できる限り農薬や化学肥料を使用しない持続的な農業に取り組んでいます。米を出荷販売する組合員は、有機JAS認証を得ており、安心・安全なお米を届けています。このように、先進的に有機米の栽培に取り組んできた生産者が現役で活躍し、長年の経験から培った栽培技術を指導できる人がおります。しかし、その技術と農地を引き継ぐ次の担い手がないことが喫緊の課題となっています。

そのため、今回、地域おこし協力隊として当地域に移住し、協力隊の3年間で有機農業の知識や技術を身に付け、将来的に有機農業を中心に生計を立てたい方を募集します。任期終了後は、これまで有機農業を行ってきた農地を引き継ぐこともできるので、学んだ知識や技術を引き続き存分に活かした農業を行うことができます。

## 協議 2) 令和6年度事業の今後の取組み計画について

---

### 1 小菊の有望品種選抜 (担当: 南部農業技術開発センター)

#### 〈取組内容〉

開花期等の品種特性を把握するため3つの調査を行う。

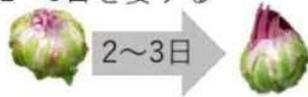
#### ①花蕾径調査

- ・着色するまで蕾の大きさを計測する調査。



- ・着色から開花までに2, 3日かかる。

多くの小ギク品種は着色から開花までに2~3日を要する



- ・着色までの日数がわかれば、開花時期を予測できる。
- ・品種によって着色までの日数が異なる。
- ・品種ごとの着色するまでの日数及びその時の蕾の大きさを把握するため調査を行う。

#### ②採花本数調査

採花できる本数及び採花期を調査。

#### ③切花調査

重さ、長さ、茎の直径を計測。

## 2 有機農業の推進に係る取り組み (担当：北部農業技術開発センター)

### 〈取組内容〉

#### (1) 栽培技術講習会 (播種、育苗、代掻き、乾燥調製)

有機農業に取り組む農業者の育成及び掘り起こしのため、有機農業を目指す新規就農者及び環境保全型農業や慣行農業から有機農業への移行を希望する農業者に対し開催する。

#### (2) 有機 JAS 講習会

新規参入を促すため開催。

有機米の栽培方法、有機 JAS 取得に必要な書類や手続等について説明。

#### (3) 先進地視察

有機農業者等関係者と調整し、一関地方の有機農業の推進につながる取組事例を視察。

#### (4) 市民向け講演会

有機農業のもつ、生物多様性の保護や環境負荷低減などの価格以外の価値について理解を促進するために市民向けに開催。

#### (5) 栽培マニュアルの作成

生産にかかる費用、工程及び労働時間を生産者から聞き取り作成する。